

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年 4月1日

1 基本情報	事業名称		担当部署										
	文化財保護・保存事業費		部	教育部				係	郷土博物館				
	〔文化財保護・保存事業〕		課	生涯学習課				課長名	岩野秀夫				
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ												
	基本施策	4 心豊かに暮らせるまちづくり						第五次基本計画	113 ページ				
	施策	施策4 ー 4 平和、歴史文化						複数施策	☐ あり				
	展開方向	1	☒ 市民の平和意識の高揚						重要施策	☐ 該当			
		2	☒ 歴史的文化財の保存と活用の推進						まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ			
		3	☐ 地域の歴史・民俗・自然等への関心を高める取組の推進						実施計画	☐ 該当			
	事業種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）											
予算科目	会 計	一般会計	款	10	項	4	目	1	事業番号	8			
開始年度	年度 ☒ 不詳				行政報告書		508 ページ		新規・継続	継続			
実施の根拠 (法令・要綱等)	文化財保護条例												
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		文化財の保護・保存と調査、公開										
	対象：誰を、何を対象としているか						目的：対象をどのような状態にしたいのか						
	市民、地域の文化財						文化財保護思想を高める。文化財の保護・保存に努める。						
	活動内容：どのような手段で行ったのか						活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか						
	文化財専門員会議 埋蔵文化財を含む各種文化財調査、里正日誌の刊行、旧日立航空機株式会社変電所の公開、郷土芸能保存団体への補助						①変電所 公開回数115日 見学者数11,988人 ②里正日誌第六巻の刊行						
	効果指標		単位	令和2年度			令和3年度			令和4年度			
		年度目標値		①18回・2283人			①68回・10200人			①120回・18000人			
		効果実績値		①8回・238人			①55回・10945人			①115回・11988人			
		目標値設定の考え方	①変電所公開回数、②変電所見学者数 ②については新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し1回あたり150人で算出した。										
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
事業費（実績）		円	105,131,001			31,689,719			4,907,918				
財源		一般財源	円	105,111,001			8,872,719			4,866,118			
		特定財源（国・都・他）	円	20,000			(都) 9296000 (他) 13521000			(都) 20,000 (他) 21,800			
		(うち受益者負担)	円										
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	1.0			1.3			1.4			
		所要人数（再任用）	人	0.0			0.0			0.0			
		職員人件費（再任用以外）	円	8,380,000			10,725,000			11,424,000			
		職員人件費（再任用）	円										
事業費+人件費		円	113,511,001			42,414,719			16,331,918				
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について												
	里正日誌刊行が終了した後、市内に残る古文書の読み下し、刊行事業の要望を受けた。 都指定文化財所有者から防犯カメラ設置について補助の申請を受けた。 旧日立航空機株式会社変電所について、一般公開日以外の団体見学の申し込みを受けた。												

5 市民協働	市民協働の取組		取組手法：③旧日立航空機株式会社変電所の公開など					
	☒ 取組んだ ☐ 取組まない		【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）					
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点							
	情報共有と共通認識を持ち、信頼性を築きながら活動していくこと。							
6 分析・評価	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)							
	☒ 向上 ☐ 維持 ☐ 低下		説明： 変電所の公開については、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら行い、公開方法も確立しつつある。オリジナルクリアファイルを作成・頒布し、売り上げの一部（21,800円）を変電所保存等のための寄附に充てることができた。					
	(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)							
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： 変電所公開にあたっては、専門知識を持った説明（会計年度任用職員）2人を雇用し行っているが、人員が不足している。 里正日誌刊行事務は4年度をもって終了するため、5年度以降は刊行物を活用し、里正日誌の調査・研究に資する。					
	(3)指標の達成状況の評価							
		(2) 費用対効果				成果ランク (評価)	成果ランクの説明と方向性	
	(1)		向上	維持	低下			
	効果指標	向上	A	B	D			B
		維持	C	E	G			
		低下	F	H	I			
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、I のときは廃止を検討する。								
A：効果指標・費用対効果が共に向上 B：効果指標が向上・費用対効果が維持 C：効果指標が維持・費用対効果が向上 D：効果指標が向上・費用対効果が低下 E：効果指標・費用対効果が共に維持 F：効果指標が低下・費用対効果が向上 G：効果指標が維持・費用対効果が低下 ※ H：効果指標が低下・費用対効果が維持 ※ I：効果指標・費用対効果が共に低下 ※								
(4)効率性評価（さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。）								
☐ 見直す余地がある ☒ 見直す余地はない		説明： 正規職員の減もあり、経費を縮小して成果を下げずに事業を行うのは困難。						
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)								
☐ 大きい ☐ 小さい ☒ 不可能		説明： 東大和市の顔ともいえる多摩湖と変電所。その変電所をはじめとする文化財への関心も高く、全国からの来場者がある。その他、埋蔵文化財についても、文化財保護法、保護条例にのっとり継続して事業展開していかなければならない。						
7 課題	(1)令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記）							
	変電所の対応が会計年度任用職員2人では対応しきれず、博物館から応援に行っている状態である。新型コロナウイルス感染者数と来場者の数が落ち着いてきた頃、ガイドの方法などを見直したい。							
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと							
	時間を設定してガイドを行うなど、試験的に新たな方法を実施した。							
8 方向性	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）							
	試験的な変電所ガイド方法の検証と広報。保存・改修工事終了後に変電所公開を再開したが、一部展示替えまたは企画展示を行う必要がある。 里正日誌刊行記念の行事の実施。							
8 方向性	(1)今後の取組（「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など）							
	里正日誌刊行記念の事業の実施							

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年 4月1日

1 基本情報	事業名称		担当部署										
	文化施設管理費		部	教育部				係	郷土博物館				
	〔文化施設管理事業〕		課	生涯学習課				課長名	岩野秀夫				
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ												
	基本施策	4 心豊かに暮らせるまちづくり						第五次基本計画	113 ページ				
	施策	施策4 ー 4 平和、歴史文化						複数施策	☐ あり				
	展開方向	1	☐ 市民の平和意識の高揚						重要施策	☐ 該当			
		2	☒ 歴史的文化財の保存と活用の推進						まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ			
		3	☐ 地域の歴史・民俗・自然等への関心を高める取組の推進						実施計画	☐ 該当			
	事業種別	☒ 市単独 ☐ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）											
予算科目	会 計	一般会計	款	10	項	4	目	1	事業番号	9			
開始年度	平成 5 年度		☐ 不詳		行政報告書		512 ページ		新規・継続	継続			
実施の根拠 (法令・要綱等)													
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		旧吉岡家住宅の公開、吉岡堅二現有物調査、旧吉岡家住宅の施設管理										
	対象：誰を、何を対象としているか					目的：対象をどのような状態にしたいのか							
	市民					当市ゆかりの日本画家・吉岡堅二の作品に触れ、芸術・文化への関心と理解を高める。							
	活動内容：どのような手段で行ったのか					活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか							
	旧吉岡家住宅の公開、吉岡堅二関連グッズの頒布、建物修繕と日常的な管理 吉岡堅二現有物調査					市内に高名な日本画家が住んでいたことを知り、また、国の登録有形文化財である主屋等を見る事により郷土の誇りを感じてもらうことができた。							
	効果指標	増加を目指す指標	単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度					
		年度目標値	人	1,200		1,100		1,100					
		効果実績値	人	530		494		1,002					
		目標値設定の考え方	旧吉岡家住宅公開時の来場者数 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、前年度並みとした。										
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度				
事業費（実績）		円	1,624,840		1,474,025		1,908,833						
財源		一般財源	円	1,624,840		1,474,025		1,908,833					
		特定財源（国・都・他）	円										
		（うち受益者負担）	円										
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	0.5		0.5		0.5					
		所要人数（再任用）	人					0					
		職員人件費（再任用以外）	円	4,190,000		4,125,000		4,080,000					
		職員人件費（再任用）	円										
事業費+人件費		円	5,814,840		5,599,025		5,988,833						
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について												
	貴重な建物（旧吉岡家住宅）をいつまでも大切に保存してほしい。												

5 市民協働	市民協働の取組		取組手法：③事業協力				
	☒ 取り組んだ ☐ 取り組まない		【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）				
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点						
	情報共有と共通認識を持ち、信頼性を築きながら活動していくこと。						
6 分析・評価	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)						
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： 令和4年度の吉岡家の現物調査では、490点を登録し合計6,780点となった（平成27年度から調査開始）。なお、新型コロナにより令和2年度より調査にも影響が生じた。				
	(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)						
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： 郷土美術館を将来的に定期公開していくためには、現物調査と合わせて建物の基礎調査（耐震診断等）を行う必要がある。				
	(3)指標の達成状況の評価						
		(2) 費用対効果			成果ランク (評価)	成果ランクの説明と方向性	
	(1)		向上	維持			低下
	効果指標	向上	A	B			D
		維持	C	E			G
		低下	F	H			I
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、I のときは廃止を検討する。							
(4)効率性評価（さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。）							
☐ 見直す余地がある ☒ 見直す余地はない		説明： 公開回数を増やしていきたいが、現状の予算、職員体制では困難。					
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)							
☐ 大きい ☐ 小さい ☒ 不可能		説明： 国の登録有形文化財として保存・活用するために調査と公開事業は継続していくことが求められる。					
7 課題	(1)令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記）						
	国の登録有形文化財としての保存、管理、活用						
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと						
	春と秋の2回の公開を行ない、新型コロナウイルス対策を考慮したイベントを実施した。 水道設備の修繕を行った。						
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）						
国の登録有形文化財としての保存、管理、活用							
8 方向性	(1)今後の取組（「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など）						
	公開と同時に行う文化財ガイド及び魅力的なイベントの実施を検討する。						

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年 4月1日

1 基本情報	事業名称		担当部署									
	郷土博物館管理事業費 〔郷土博物館管理事業〕		部	教育部				係	郷土博物館			
			課	生涯学習課				課長名	岩野秀夫			
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ											
	基本施策	4 心豊かに暮らせるまちづくり						第五次基本計画		113 ページ		
	施 策	施策4 ー 4 平和、歴史文化						複数施策		☐ あり		
	展開方向	1	☐ 市民の平和意識の高揚						重要施策		☐ 該当	
		2	☒ 歴史的文化財の保存と活用の推進						まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン		ページ	
		3	☐ 地域の歴史・民俗・自然等への関心を高める取組の推進						実施計画		☐ 該当	
	事業種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）										
予算科目	会 計	一般会計	款	10	項	4	目	4	事業番号	1		
開始年度	平成 6 年度 ☐ 不詳				行政報告書		540 ページ		新規・継続	継続		
実施の根拠 (法令・要綱等)	郷土博物館条例											
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		郷土博物館の施設管理、郷土博物館協議会の開催									
	対象：誰を、何を対象としているか					目的：対象をどのような状態にしたいのか						
	郷土博物館利用者、施設					安全に利用していただく						
	活動内容：どのような手段で行ったのか					活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか						
	日常の施設管理業務、各種保守点検、施設修繕、博物館協議会の開催等					博物館協議会開催数1回、施設・備品の修繕工事3件、事故件数2件						
	効果指標	減少を目指す指標	単位	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
		年度目標値	件	0			0			0		
		効果実績値	件	1			2			2		
		目標値設定の考え方	事故件数は施設を安全に利用していただくため0が望ましい									
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度			令和3年度			令和4年度	
事業費（実績）		円	24,498,711			29,246,212			40,043,778			
財源		一般財源	円	22,503,011			27,239,182			30,914,118		
		特定財源（国・都・他）	円	1,995,700			2,007,030			9,129,660		
		（うち受益者負担）	円	199,570			0					
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	0.5			0.5			0.8		
		所要人数（再任用）	人	0.5			0.5			0.0		
		職員人件費（再任用以外）	円	4,190,000			4,125,000			6,528,000		
		職員人件費（再任用）	円	1,517,500			1,510,000			0		
事業費+人件費		円	30,206,211			34,881,212			46,571,778			
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について											
	「駐車場が満車で停められない」という要望のほか、館内の冷房について苦情があった。情報サービス室の常時開放の要望。											

5 市民協働	市民協働の取組		取組手法：③事業協力				
	☒ 取り組んだ ☐ 取り組まない		【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）				
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点						
	信頼関係を築きながら、市民協働を継続していきたい。						
6 分析・評価	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)						
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： 空調設備及び照明装置の実施設計を行ったことにより、修繕の方向性が示されつつある。（委託設計の契約期間は5年6月末。）				
	(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)						
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： 電気料金の値上がりなどにより、光熱水費に不足が生じ補正予算を組んだ。				
	(3)指標の達成状況の評価						
		(2) 費用対効果			成果ランク (評 価)		成果 ランク の 説 明 と 方 向 性
	(1)		向上	維持	低下		
	効果 指標	向上	A	B	D	E	
		維持	C	E	G		
		低下	F	H	I		
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、I のときは廃止を検討する。							
A：効果指標・費用対効果が共に向上 B：効果指標が向上・費用対効果が維持 C：効果指標が維持・費用対効果が向上 D：効果指標が向上・費用対効果が低下 E：効果指標・費用対効果が共に維持 F：効果指標が低下・費用対効果が向上 G：効果指標が維持・費用対効果が低下 ※ H：効果指標が低下・費用対効果が維持 ※ I：効果指標・費用対効果が共に低下 ※							
(4)効率性評価（さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。）							
☐ 見直す余地がある ☒ 見直す余地はない		説明： 竣工後30年が経過し、経年劣化により各種点検で修繕や更新工事が求められている。経費削減は困難である。					
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)							
☐ 大きい ☐ 小さい ☒ 不可能		説明： 施設を良好な状態に保つため最低限必要な管理事業を行っている。事業縮小は不可能。					
7 課題	(1)令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記）						
	修繕に必要な予算獲得と修繕の実施						
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと						
	中央監視盤の更新工事、防火シャッター修繕、空調及び照明器具更新工事のための実施設計委託を行った。						
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）						
施設の老朽化により、修繕を要する箇所は増大する一方である。消防署からも指摘されているハロン消火設備の交換工事が急がれる。							
8 方向性	(1)今後の取組（「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など）						
	空調及び照明器具交換工事の実施にあたり、臨時休館を余儀なくされることも想定して館の運営にあたる必要がある。						

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年 4月1日

1 基本情報	事業名称		担当部署										
	郷土博物館事業費		部	教育部				係	郷土博物館				
	〔郷土博物館事業〕		課	生涯学習課				課長名	岩野秀夫				
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ												
	基本施策	4 心豊かに暮らせるまちづくり							第五次基本計画	113 ページ			
	施策	施策4 — 4 平和、歴史文化							複数施策	□ あり			
	展開方向	1	☑ 市民の平和意識の高揚							重要施策	□ 該当		
		2	☑ 歴史的文化財の保存と活用の推進							まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ		
		3	☑ 地域の歴史・民俗・自然等への関心を高める取組の推進							実施計画	□ 該当		
	事業種別	☑ 市単独 □ 補助対象 □ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）											
予算科目	会 計	一般財源	款	10	項	4	目	4	事業番号	2			
開始年度	平成 6 年度 □ 不詳				行政報告書		542 ページ		新規・継続	継続			
実施の根拠 (法令・要綱等)	郷土博物館条例												
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		地域の歴史・民俗・自然への興味関心を高める取組の推進（地域資料の調査・研究、収集、保存、展示、教育普及活動、プラネタリウム投影等）										
	対象：誰を、何を対象としているか				目的：対象をどのような状態にしたいのか								
	市民				郷土の自然、歴史、民俗への興味関心を高める。								
	活動内容：どのような手段で行ったのか				活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか								
	①企画展示及びロビー展示の開催 ②プラネタリウムの投影 ③観覧会等講座の開催 ④学校授業の受入れ その他、オオムラサキ保護活動、印刷物の発行など				①企画、ロビー展示合計12件開催、②観覧者数42,314人、③自然観察会12回261人、ちいさな自然観察会42回179人、星空観察会4回103人、文化財めぐり1回24人、機織体験46回87人、その他の講座29回455人、④出張授業など98件、プラネタリウム学習投影80件により、知的好奇心が刺激し学習を体験的に深めることができた。								
	効果指標			単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度				
		年度目標値	人	54,000		41,000		41,000					
		効果実績値	人	40,831		44,992		42,253					
		目標値設定の考え方	郷土博物館観覧者数 新型コロナウイルス感染症による影響がある中、昨年度を上回る数値とした。										
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度				
事業費（実績）		円	7,525,425		6,951,366		6,668,035						
財源		一般財源	円	7,525,425		6,951,366		6,668,035					
		特定財源（国・都・他）	円	0		0		0					
		（うち受益者負担）	円	0		0		0					
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	2.0		1.7		1.6					
		所要人数（再任用）	人	1		1		0					
		職員人件費（再任用以外）	円	16,760,000		14,025,000		13,056,000					
		職員人件費（再任用）	円	1,517,500		1,510,000		0					
事業費+人件費		円	25,802,925		22,486,366		19,724,035						
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について												

5	市民協働の取組		取組手法：③事業協力 学校授業への講師派遣、講座及び展示への協力、オオムラサキ保護活動等				
	☒ 取り組んだ ☐ 取り組まない		【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）				
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点						
情報共有と話し合い、個々の考え方を尊重しつつお互いに共通理解と目標を持って活動すること。							
6	(1) 効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)						
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明：新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、臨時休館することなく1年間開館することができた。ただし、プラネタリウムの席数を減らすなどの影響はあり、コロナ禍前のような事業展開はできなかった。しかし、学校授業への協力件数も元に戻りつつあり、子どもから高齢者まで地域の自然、歴史、民俗を中心に魅力を伝えることができた。				
	(2) 費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)						
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明：地域の自然、歴史、民俗について専門的な観点から、知的好奇心・疑問に答えなければならない。その中で、企画展示の開催数を減らすなどして事業展開した。				
	(3) 指標の達成状況の評価						
		(2) 費用対効果			成果ランク (評価)	成果ランクの説明と方向性	A：効果指標・費用対効果が共に向上
	(1)	向上	維持	低下			B：効果指標が向上・費用対効果が維持
	効果指標	向上	A	B	D	E	C：効果指標が維持・費用対効果が向上
		維持	C	E	G		D：効果指標が向上・費用対効果が低下
		低下	F	H	I		E：効果指標・費用対効果が共に維持
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、Iのときは廃止を検討する。						F：効果指標が低下・費用対効果が向上 G：効果指標が維持・費用対効果が低下 ※ H：効果指標が低下・費用対効果が維持 ※ I：効果指標・費用対効果が共に低下 ※	
(4) 効率性評価（さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。）							
☐ 見直す余地がある ☒ 見直す余地はない		説明：学校教育との連携においては市内の学校はもちろん、市外の学校からの授業協力依頼が増えている。最少経費で自然、歴史、民俗への関心を高める事業を展開していき					
(5) 休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)							
☐ 大きい ☐ 小さい ☒ 不可能		説明：自然、歴史、民俗への関心を高めるためには、事業の休止等は不可能。					
7	(1) 令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題(3)を転記）						
	広報活動による集客とコロナ禍における3密を避けた運営方法の構築。						
	(2) (1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと						
	プラネタリウム学習投影時に、回数を分けて投影する等、コロナ対策を行った。 その他、事業によっては定員を設けて実施した。広報活動においてはSNSを用いる方法を取り入れた。						
	(3) (2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）						
5月8日以降のコロナ対策と事業の運営の方法							
8	(1) 今後の取組（「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など）						
	職員自らが各分野での知識、技術を高めるとともに、グローバルな視点を持って事業展開に活かすよう努める。 近隣市との協力体制を整え事業展開できるよう準備する。						

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年 4月1日

1 基本情報	事業名称		担当部署								
	新型コロナウイルス感染症対策事業費 〔新型コロナウイルス感染症対策事業〕		部	教育部			係	郷土博物館			
			課	生涯学習課			課長名	岩野秀夫			
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ										
	基本施策	行財政運営 1. 行財政運営、行政改革					第五次基本計画	153 ページ			
	施 策	行財政 — 1 行財政運営、行政改革					複数施策	☐ あり			
	展開方向	1	☒ 市民サービスの質の向上と効果的・効率的な行財政運営の推進					重要施策	☒ 該当		
		2	☐ より一層の行政改革の推進					まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ		
		3	☐ デジタル化の推進					実施計画	☐ 該当		
	事業種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）									
予算科目	会 計	一般会計	款	10	項	4	目	4	事業番号	3	
開始年度	令和 3 年度			☐ 不詳		行政報告書	553 ページ		新規・継続	継続	
実施の根拠 (法令・要綱等)											
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から来館者に安全に利用していただくため、備品等を購入した。								
	対象：誰を、何を対象としているか					目的：対象をどのような状態にしたいのか					
	郷土博物館、旧日立航空機株式会社変電所、旧吉岡家住宅					安全に利用していただける環境を整備する。					
	活動内容：どのような手段で行ったのか					活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか					
	空気清浄機の購入 抗菌椅子の購入など					空気清浄機12台、抗菌ロビーチェア、机等の購入					
	効果指標			単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
		年度目標値									
		効果実績値									
		目標値設定の考え方		3年度はトイレ等の工事、4年度は備品類の購入を行ったため、連続しての目標は設定できない。							
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
事業費（実績）		円	0		1,821,600		4,327,840				
財源		一般財源	円			832,600		1,049,840			
		特定財源（国・都・他）	円			989,000		3,278,000			
		（うち受益者負担）	円			0					
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人			0.1		0.1			
		所要人数（再任用）	人			0		0			
		職員人件費（再任用以外）	円			825,000		816,000			
		職員人件費（再任用）	円			0		0			
事業費+人件費		円	0		2,646,600		5,143,840				
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について										
	特になし										

5	市民協働の取組		取組手法：					
	☐ 取り組んだ ☒ 取り組まない		【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）					
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点							
6	分析・評価	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)						
		☒ 向上 ☐ 維持 ☐ 低下		説明： 来館者に安心して施設を利用していただくことができた。				
		(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)						
		☒ 向上 ☐ 維持 ☐ 低下		説明： 特定財源で賄うことができたため、費用対効果は高かった。				
		(3)指標の達成状況の評価						
			(2) 費用対効果			成果 ランク の 説明 と 方向 性		
		(1)		向上	維持		低下	A：効果指標・費用対効果が共に向上 B：効果指標が向上・費用対効果が維持 C：効果指標が維持・費用対効果が向上 D：効果指標が向上・費用対効果が低下 E：効果指標・費用対効果が共に維持 F：効果指標が低下・費用対効果が向上 G：効果指標が維持・費用対効果が低下 ※ H：効果指標が低下・費用対効果が維持 ※ I：効果指標・費用対効果が共に低下 ※
		効果 指標	向上	A	B		D	
			維持	C	E		G	
			低下	F	H		I	
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、Iのときは廃止を検討する。								
(4)効率性評価（さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。）								
☒ 見直す余地がある ☐ 見直す余地はない		説明：予算説明から提出までの締め切りに時間がなく、参考見積がとれないものもあった。また、商品の販売中止や値上がりにより、購入をあきらめた備品もあった。その代わり、その後必要な備品が生じて、予算段階に見積もりが計上されていないものは購入を認められなかった。						
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)								
☐ 大きい ☐ 小さい ☒ 不可能		説明： 補助対象事業であるため、いつまで事業があるかわからない。						
7	課題	(1)令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記）						
		(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと						
(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）								
同様の補助金申請をする際は、締め切り期限が短く対応しきれないことがある。そのため、日ごろから必要な備品類、修繕などをリストアップすると事務効率が上がるのではないかな。								
8	方向性	(1)今後の取組（「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など）						
		新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、購入した備品を効果的に活用していきたい。						